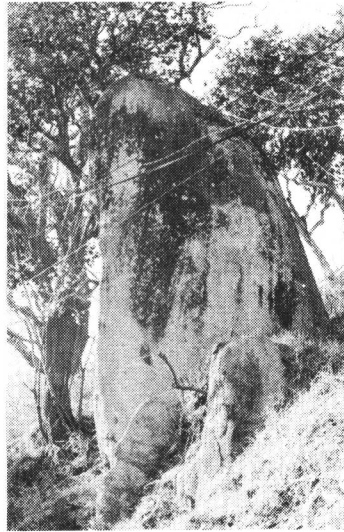


えぼし石



えぼし石

われたものをあげてみます。

えぼし石、川越の入口、月館電話局の後ろに、高さ五メートルもある花崗岩が立木をしのいで立っています。その形が、昔のかぶりもの「えぼし」に似ているのでこう名づけられたのでしょう。側に大きなしだれ桜があり春の頃は一段と良い眺めです。

ふくろ石、えぼし石の近くにありましたが石材として割られました。三つの大きな石だったそうです。

口あけ石、口明石と書かれています。山の中腹に大きく口を開けていたのでこの名があります。前のふくろ石と組んで、陰陽を表わすといえます。

つつみ石、川越の道沿いにあります。ただけば、ポン・ポンとつつみのような音がするので名づけられたものといわれます。

たたみ石、今の電報電話局のあたりまで広瀬川が蛇行して流れていました。その頃川岸にあつて、平らな石だったということです。

よばり石（一四九ページ）

信達一統誌の下糠田邨のところに、包石、琴琶石、座頭石、伝女石（待女石？）、傾城石、の五石の名があり、それぞれに歌がついています。包石は、「つつみ石」と読むものとみられますが、この石を除いて、現在それらしい石は見当りません。

この五石とは別について最近まで、月館の七石と言